

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	書道A(0274)	
科目基礎情報							
科目番号	1M28			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実技			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	産業システム工学科機械システムデザインコース			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	書道 I (光村図書)						
担当教員	米田 巧						
到達目標							
・ 書の基本を理解し、暮らしの中に生かすことができる ・ いろいろな書体やバリエーションを駆使して自由な発想で作品を創作することができる ・ 臨書を通して書の歴史と書の奥深さを理解できる ・ 書を愛好することができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	書の基本を理解し、自発的に暮らしの中に生かすことができる			書の基本を知り、暮らしの中に生かすことができる		書の基本を理解できず、暮らしの中に生かすことができない	
評価項目2	いろいろな書体やバリエーションを駆使して自由な発想で作品を創作することができる			いろいろな書体やバリエーションを駆使して作品を創作することを知っている		いろいろな書体やバリエーションを駆使して自由な発想で作品を創作することができない	
評価項目3	臨書を通して書の歴史と書の奥深さを理解できる			臨書を通した書の歴史と書の奥深さを知っている		書の歴史と書の奥深さを理解できない	
評価項目4	書を積極的に愛好することができる			書を愛好する意味を知っている		書を愛好することができない	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー DP1							
教育方法等							
概要	・ 小・中学校の書写から書道への移行として、漢字と仮名の調和と平仮名、片仮名の多様な表現を身につけさせる。 ・ 漢字の成立と変遷について理解させ、古典の臨書の鑑賞と実技で理解を深める。 ・ 日常に役立つ文字を書けるようにするとともに、書を愛好する心を育てる。 【開講学期】春学期週2時間、夏学期週2時間						
授業の進め方・方法	・ 用具・用材による表現の変化や紙面構成のバリエーションの学習から、創作作品につながる構想を持たせ、作品を自由に作らせる。 ・ 臨書で古人の作品に触れ、実技を通して書の歴史を知る。 ・ 落款印や和綴じ本、写経の制作を通して、一つの作品を作り上げる達成感を体験させる。 【評価方法】提出作品の評価が 80%、用具の準備・取り組む姿勢が 20% (用具の準備が不足の場合は減点する)全体を総合して 60 点以上を合格とする。						
注意点	・ 「漢字仮名交じり文」を通して用具用材の適切な使い方、書く時の姿勢、執筆法などの重要性を理解すること。 ・ 実技だけでなく、書の歴史を知ることにより、書の奥深さを感じ取ること。 ・ 日常生活に役立ち、文字を書くことの重要性を知ること。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	はじめに(書道ってなんだろう) ・ 用具用材 ・ いろいろな線による表現				
		2週	楷書について ・ 臨書 ・ 初唐の三大家				
		3週	臨書1 楷書 九成宮醴泉銘 ・ 背勢と向勢				
		4週	臨書2 楷書 孔子廟堂碑 ・ 書体と書風				
		5週	臨書3 楷書 雁塔聖教序 ・ 藏鋒と露鋒				
		6週	臨書4 楷書 自書告身帖 ・ 軽快な書と重厚な書				
		7週	臨書5 楷書 牛橛造像記と鄭羲下碑 ・ 方筆と円筆				
		8週	実用書				
	2ndQ	9週	行書について				
		10週	臨書6 行書 蘭亭序 (全臨1) ・ 蘭亭序について				
		11週	臨書7 行書 蘭亭序 (全臨2) ・ 蘭亭序伝説				
		12週	臨書8 行書 蘭亭序 (全臨3) ・ 蘭亭序の種類				
		13週	臨書9 行書 蘭亭序 (全臨4) ・ 落款について				
		14週	臨書10行書 蘭亭序 (全臨5) ・ 和綴じの方法				
		15週	隷書について				
		16週	仮名について				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合			
	提出作品	用具の準備・取り組む姿勢	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100